

# 新社長に聞く

鉄スクラップ販売大手の扶和メタル(大阪府)は、今日1日付で勝山正明専務が社長に昇格するなど役員体制を一新し、大幅な若返りを図った。創業100年を超える老舗でありながら、これまでも米国進出や鉄スクラップ輸出の大型化といった先駆者的存在だった同社の5代目社長に就任した勝山氏に今後の意気込みや事業展開などを聞いた。

——社長就任にあたって  
「今年の夏頃に社長就任を正式に打診された。創業から108年もの歴史を持つ企業の社長としての重責があり、その名を恥じないように気が引き締まる思いだが、持ち前のバイタリティーで社長としての責務を果たしていきたい。特に今回は新役員体制の平均年齢が59

経験の少ない従業員も登用してきたが、みな一生懸命に働いてくれている。今後はまずその彼ら彼女らがもっともっと自信を持ってより強い支店づくりを目指し、そのスピードで国内や海外に支店を開設するなど拡大路線を進めてきた中で、

## 人間力の強化をなお推進



扶和メタル  
勝山 正明氏

▽勝山正明(かつやま・まさあき)氏=1986年4月扶和メタル入社。95年10月市川支店長、2000年2月取締役、05年1月常務取締役、09年1月専務取締役、16年10月代表取締役社長。仕事は常に「よし、やってやろう」とポジティブに取り組むことがモットー。趣味はゴルフのほか、「黒川前社長の影響を受けて車好きになった」と笑顔を見せる。65年12月22日生まれ、大阪府出身。

「失敗の許されない大きなプレッシャーのかかる状況だったが、4年目には収益がイープンでそのまま軌道に乗る、7年目を上回る成績を上げることに成功した。このことが大きな自信のもとになった。長に就任して、社内に各支店に送り、販路を拡大していくことも米国内拠点をさらに活用していきたい。また、これまでも海外に強い社員の育成に注力してきたが、今

た、大阪地区でも収益が悪化したところもあり、市川支店開設から3年が経った当時、関東地区のヤード事業から一旦撤退するというのが役員会でも採択されたところだったが、もう少しだけ時間が欲しいという嘆願したところ黒川前社長に認めていただいた。国内では少子高齢化などにより、中長期的には鋼材需要が減少傾向に進むと見られており、鉄スクラップ事業の拡大も難しいだろう。ただ、当社では早くから鉄スクラップ貿易、さらに米国進出など海外事業に注力してきた。もちろん今後も国内事業が中心となるが、強みを持つ海外事業については若手を積極的に各支店に送り、販路を拡大していくことも米国内拠点をさらに活用していきたい。また、これまでも海外に強い社員の育成に注力してきたが、今

2016年(平成28年)  
10月19日(木)  
第19088号  
Since 1936

(早間 大吾)